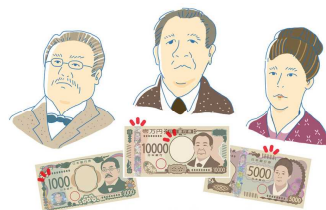


# 通信 「ちえふる」 8月号

## 新しい五千円札 津田梅子さんって、どんな人？

令和6年7月3日に新しい一万円札、五千円札、千円札が発行されて1か月以上経ちましたが、みなさんはもうご覧になりましたか？（20年ぶりに新しくなったお札には、偽造対策が強化されたほか、お札を識別しやすくするための新たな工夫が施されているのだそうです。）

そこで、今回は、新五千円札の顔として起用された津田梅子さんの言葉の中からいくつかご紹介します。（「学ぶ」ということについて、津田梅子さんの考え方が伝わってきます。）



真の教育には、物質上の設備以上に教師の資格と熱心と、学生の研究心が大切である。

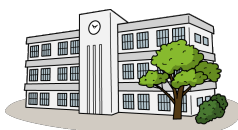
女性の高等教育機関としての女子英学塾（現在の津田塾大学）開校式式辞での言葉です。開校当初は梅子たちが無報酬で働いており、設備も決して立派ではなかったそうです。しかし、学生を導く力・資格・熱意のある教師と、向学の精神に満ちた学生たちが、意見を交えながら真実の学びに向かうことが学問の本質であると説いています。

この学校に限らず、他のどの学校においても、学校だけで皆さんの行く手にあるものに対処できる力を完全につけてあげることはできない。将来は、皆の手中にあり、皆は実際の体験における試練と教訓を待たなければならない。

学校という守られた場所から巣立ち、社会の現実と立ち向かう学生たちに正直に伝えた卒業式式辞での言葉です。教えるべきことは教え、あとは学生一人一人の力量に任せる決断の言葉でもありました。

まかれた種は、豊かに実りをつけねばならないことを心得てください。

この言葉も、卒業式式辞での言葉です。学校で学んだことを社会に還元することの大切さを伝えています。津田梅子自身が、アメリカ留学で学んだことを日本に還元する努力を続けていました。学んだ成果を次の世代に伝えていくことの大切さを訴えています。



皆さんの学びが、これからもつながり、実り多いものになっていくことを願っています。

◆来月の休館日は

9月30日(月)です。

天童市学習支援室  
「リバテラスちえふる」  
TEL (023) 651-6205